

## 家庭科部会

海野りつ子

### コロナ禍での家庭科学習Ⅱ生活からの出発

「新型コロナウイルス」の影響は、家庭科教育にも大きな影を落とし、様々な配慮や努力で授業が取り組まれていきます。

人同士が接触することが感染リスクにつながる、しかも有効な治療法の確立にはまだ遠いというやっかいな環境の中で、特に実習授業を行うことに大変な準備・工夫が必要とされています。

密にならないようクラスの人数を半分に分け、実習を2度に分けて行う（半数が実習、半数は自習。次週は交代）。共同作業でなく、一人作業。用具は使う都度、洗ったり消毒したりなど。私たちは少人数学級実現と教員の増員を要求し続けてきましたが、それが文科省にさえ、目に見える形で明らかとなったのです。

オンライン授業の工夫も追及されましたが、家庭科の場合、例えば食材の説明をするのに写真・イラストで説明す

る場合もありますが、本物・実物を見せたほうが子どもたちにとってのインパクトは大きくなります。つまり、家庭科では従来から行われてきた実習や、教師の実演を見る、子どもたち同士で話し合っ  
て授業をお互いに作っていくという関係が、オンライン授業では得られない大切なところなのです。ここにも、研究しなければならぬ課題があります。

人は集団とのつながりの中で生きています。それは、学校が再開されてからの子どもたちの声、「友だちとまた会えてうれしい」「学校がこんなに大切などころだと改めて感じた」などにも代表されています。生活から出発する家庭科では、生活の中の課題を互いに交流し、学び合うことを大切にしていきたいものです。

新型コロナウイルスの流行の中で、新自由主義の様々な矛盾が目に見える形で

明らかになりました。◆医療や福祉にお金がかかれず削減され続けてきた◆経済活動が不安定になると非正規労働者の雇用が切られ、同時に住まいをなくす人も増えた◆命第一の政治が行われぬ◆マスクや医療用資材不足など、外国に商品の生産拠点を多く依存し、貿易が途絶えると大きな支障が出る◆子どもたちの健康を支える上で学校給食の果たしてきた役割の大きさ◆家庭の中で衣食住の生活を営む力の必要性（免疫力を上げるためにも必要）◆家庭の中で互いを尊重して暮らすことの難しさ、住環境の大切さ◆給付金配布における世帯・世帯主という概念が適当なのか◆未知のウイルスが人間社会に入ってくる原因◆地球環境破壊との関係等々、どれも家庭科の課題です。

「新しい日常」という言葉には抵抗があります。現実に対応しろと言われていくように感じます。求められているのは、新自由主義政治経済の下でないがしろにされてきた問題を解決し、一人ひとりの命と暮らしが大切にされる「あるべき日常」を取り戻すことではないでしょうか。

（共同研究者）